

使徒の働き12章1-2節 「なぜヤコブか？」

1A ヤコブの殉教

1B ペテロの救い

1C ヤコブの飲んだ杯

2C 年老いてからの殉教

2B 測りがたい道

1C 限られた知識での道

2C 完全な知識と知恵

3C 苦しみの中の問い

3B 信仰の人の苦しみ

2A 神の答え

1B 神のご性質

1C 善き方

2C 主権者

2B 応答

1C 信頼と献身

2C 試練による清め

3C 将来の希望

4C 地上での使命

本文

使徒の働き 12 章を開いてください、私たちの聖書通読の学びは使徒の働き 11 章まで来ていました。午後礼拝で 12 章を一節ずつ見ていきますが、今朝は 1-2 節に注目したいと思います。「¹ ところ、ヘロデ王は、教会の中のある人たちを苦しめようとしてその手を伸ばし、² ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。」

1A ヤコブの殉教

1B ペテロの救い

十二使徒の中で、初めての殉教者ヤコブのことから、12 章は始まります。けれども、次にペテロも殺されそうになるも、神が御使いを遣わされて、彼は救い出された話です。なぜ、ヤコブは殺されるのを神は許され、ペテロは救われるようにされたのか？という疑問です。

1C ヤコブの飲んだ杯

ここに出てくるヘロデとは、「ヘロデ・アグリッパ一世」のことです。彼についての詳しいことは午後

礼拝で説明しましょう。彼はユダヤ人の人気を得たいと願う王でした。ユダヤ人が既に、イエスをメシアと信ずる者たちを憎んでいたため、彼らを喜ばせることができると思って、ヘロデは教会の指導者の一人であるヤコブを殺したのです。

このヤコブは、「ヨハネの兄弟ヤコブ」とあるとおり、ゼベダイの子です。漁師で、ヨハネと共に網を捨て、イエス様に従いました。そして、イエス様がペテロとヨハネとヤコブの三人だけを呼んで、ご自分の奇跡や栄光をお見せになりました。ヤイロの娘の生き返りです。それから、高い山でご自分の姿が栄光に輝くさまをお見せになりました。そして、ゲッセマネの園では三人を他の弟子たちよりさらに引き寄せて、近くでいさせ、少し離れてご自分だけで祈られました。このように、ヤコブはペテロとヨハネに並ぶような存在だったのです。

そんなヤコブに、イエス様が預言を行われました。ゼベダイの妻、つまりヨハネとヤコブの母が、イエス様のところに来てひれ伏し、「息子が御国で、一人は右に、一人は左の座に座れるようにおことばを下さい。」と願いました。イエス様は、「あなたがたは自分が何を求めているのか分かっていません。わたしが飲もうとしている杯を飲むことができますか。」と尋ねて、彼らは、「できます」と言いました。イエス様は、「あなたがたはわたしの杯を飲むことになります。」と言われます。(マタイ 20:20-24)。その杯とは苦しみ一杯です。ヤコブは、それを飲むことになったのです。

2C 年老いてからの殉教

その一方で、ペテロは、「ヨハ 21:18 しかし年をとると、あなたは両手を伸ばし、他の人があなたに帯をして、望まないところに連れて行きます。」とイエス様からの預言を受けます。ペテロは後に逆さ磔によって殉教したと言われていますが、年を取ってからの話です。裏返せば、ペテロはそれまでの間、どんな危険があっても、それでも神は救われるということでもあります。そして事実、12章では、ヘロデはペテロも殺そうと思って牢屋に入れるも、御使いがその牢を開けて、彼は出てくることのできたのです。

2B 測りがたい道

ですから、主はヤコブが早期に殉教することをお許しにならえて、ペテロは死から救い出すようにされたわけですが、どうして、神はこのように一部の人には救いを与え、他の人々には苦しみや死を与えられるのか？なぜなのか？という疑問が出てきてしまいます。

1C 限られた知識での道

ここで知らなければいけないのは、私たち人間の知識と知恵が、神と比べて、あまりにも小さいということです。「イザ 55:8-9 わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。——【主】のことば——天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。」私たちが普通に考えるこ

とと、神の考えは基本、異なるということです。その思いは天地の差があるということです。

私たちは、その時々知らされた情報や知識に基づいてしか、動いていません。自分が可能な限りの事実を集め、それに基づいて、この行動を取ればこんな結果が出る、長所はこういことで、短所はこんなことだと分析します。けれども、それが結局は間違いだったとうことも、しばしばです。あくまでも暫定的な決断しかできないのです。ところが、それこそが正しいと人は思い込みます。そして、神に疑いをかけたりします。けれども、神は初めから終わりを既に語られるのです。すべてのことを知っておられて、それでお決めになっているのです。

2C 完全な知識と知恵

この知識と知恵の差はあまりにも大きいので、パウロはローマ 11 章で、神の知恵に圧倒して、こう言っています。「11:33 ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう。」なぜ？神はこんなことをされるのだろうか？と、あたかも神が不公平であるかのように断じるのであれば、それは、自分であればそんなことはしないとして、神より自分が賢いとしてしまっているのです。それこそが愚かなことであり、自分が悟れないのは、神が不公平だからではなく、神の知恵と知識の富があまりにも深く、神の判断は知り尽くしがたく、極めがたいものだからです。

3C 苦しみの中の問い

神のやり方に、どうしてですか？と問いかけるなら、この人を置いていないと思われるのが、ヨブです。ヨブは正しい人で神を畏れていたのに、たくさんいた家畜、それらを飼っていた羊飼いたち、そして、十人の子供を一気に失いました。そして自分の体までが重い皮膚病にかかり、あまりものかゆさと痛さで眠ることもできません。彼は、何度も何度も、「なぜ？」と問いかけました。「3:11-12 なぜ私は、胎内で死ななかつたのか。胎を出たとき、息絶えなかつたのか。なにゆえ、両膝が私を受けとめたのか。乳房があつて、私がそれを吸つたのか。」生きてこれほど苦しむのであれば、なにゆえ、自分は生まれきたのか？と問いかけているのです。

しかし、彼は、神の道は自分の道と異なり、その思いは自分の思いと異なることを知っていました。それでこのように信頼と決意を表明しています。「13:15 見よ。神が私を殺しても、私は神を待ち望み・・・」強い訴えを持ちながらも、なおも、神を待ち望むと言っています。

3B 信仰の人の苦しみ

ヤコブとペテロの違いを見るに、ヘブル書 11 章の信仰の人の列伝がありますが、そこにも違いがはっきりとしています。「11:33-35a 彼らは信仰によって、国々を征服し、正しいことを行い、約束のものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、火の勢いを消し、剣の刃を逃れ、弱い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を敗走させました。女たちは、死んだ身内の者たちをよみがえらせ

ていただきました。」ここまでであれば、「神は信仰者には、必ず勝利を与えてくださる。」と見えま
すよね。けれども、続けて読むところも書いてあるのです。「11:35b-38 また、ほかの人たちは、もっ
とすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを拒んで拷問を受けました。また、ほかの人
たちは嘲られ、むちで打たれ、さらに鎖につながれて牢に入れられる経験をし、また、石で打たれ、
のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、困窮し、圧迫され、虐待され
ました。この世は彼らにふさわしくありませんでした。彼らは荒野、山、洞穴、地の穴をさまよいま
した。」同じ信仰によって、ある人々は勝利し、苦しみから救われているのに、他の人たちはかえっ
て苦しみを受けているのです。

しかし、彼らの特徴は、救い出されるにしても、苦しみ、殉教するにしても、そこに神の御心があ
ると信じていたのです。

2A 神の答え

そうした人々、ヨブのような人、ヘブル書 11 章に書かれている、苦しみを受けた信仰の人々は、
どうして、そのように、なおも主に拠り頼むことができたのでしょうか？

1B 神のご性質

牧者チャック・スミスが、いつも言っていた言葉があります。彼自身、愛する父と自分の兄弟を、
飛行機事故で失っています。なぜ、そのようなことを神が許されたのか？という問いは何度となく
したことでしょう。けれども彼はいつもこう言っていました。「知っていることに戻ろう」ということ
です。また、「知らないことで、既に知っていることを捨てるのは、愚かだ。」ということ
です。

1C 善き方

神が、なんでこんなことを許されるのかは分からない。けれども、神は良い方であることは知
っています。そこに戻るのです。悪者の栄えを見て、落ち込み、ほとんど信仰的に滑り落ちそうにな
っていたアサフは、それでも神にこう歌いました。「詩篇 73:1 まことに、神はいつくしみ深い。イスラ
エルに、心の清らかな人たちに。」慈しみ深いというのは、「良い」とも訳せる言葉です。神は善
いお方だということは、私たちは立ち戻ることができるのです。そして神は、ご自分の独り子をお与
えになったほどに愛されたのです。

2C 主権者

そして、神はご自分の望まれることをことごとく行われる主権者です。天において御座におられ
て、すべてのことを掌握しておられます。天にいる長老たちや生き物は、こう神を賛美して、礼拝し
ました。「4:11 主よ、私たちの神よ。あなたこそ栄光と誉れと力を受けるにふさわしい方。あなたが
万物を創造されました。みこころのゆえに、それらは存在し、また創造されたのです。」主がご自
分の良い目的に従って、ご自分が願われるままに事を行っておられます。万物の創造主のために、

私たちは存在し、創造されたのです。

2B 応答

1C 信頼と献身

ですから、私たちの応答は、初めに、信頼と委ねる決断です。交読文で読んだ詩篇 31 篇には、こうあります。「31:5 私の霊をあなたの御手にゆだねます。」これは、イエス様が十字架で息を引き取るその直前に語られた言葉ですが、そこには父なる神への信頼と、お任せになる心があります。私たちは、主が何をしたとて、主ご自身に信頼を置き、他のことは任せてしまうのです。イザヤは言いました、「26:3 志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。」任せきった人たちが、どれだけ平安でいられるか、みなさんも目撃したことがあるのではないのでしょうか？

2C 試練による清め

そのように信頼していると、必ず主は私たちを練り清めてくださいます。ヨブが言いました、「23:10 しかし神は、私の行く道を知っておられる。私は試されると、金のようになって出て来る。」私たちがいつも聞いている御言葉が、試練があるからこそ、それが自分の身になっているかどうか試されます。そして、その本質的なところで主のことばを自分のうちに宿そうとします。神の御霊に、自分が敏感に反応していることに気づきます。

3C 将来の希望

そして、苦しみを受けている中で、将来の希望を抱くことができます。「I ペテ 1:7 試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であり、イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします。」イエス・キリストの現れが、そこでの称賛と栄光と誉れが鮮やかに見えてきます。

4C 地上での使命

その中で、苦しみの中で、天に対する希望が強くなり、本当の意味での地上での使命を知ることができるのです。パウロは、ローマで、カイサルの前に出廷するのを待っていて、牢に入れられていました。もしかしたら、殺されるかもしれません。しかし、彼はそういったことは主に任せて、自分のそばにいるカイサルに親衛隊に福音を伝え、それで彼らが信じていきました。

そして彼はこういうのです。「ピリ 1:21-24 私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。しかし、肉体において生きることが続くなら、私の働きが実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいか、私には分かりません。私は、その二つのことの間で板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。そのほうが、はるかに望ましいのです。しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためにはもっと必要です。」世を去ることは、キリストに会うこ

とそのものなのです！ですから、なぜ人は苦しみ、死ななければいけないのだ？という問いかけはなくなり、ただ主ご自身に会いたいという思いになるのです。

むしろ、なぜ地上に残されているのか？という問いが変わってきます。それは、ピリピの人たちのために働きをすることができる、その使命を果たすために地上に残されているのだ、ということになります。そこで、自分が地上で生きているのは、「キリスト」だと断言しているのです。

私たち人間は、地上で生きているのは、当然ながら自分のためだと思っています。自分の快適さのため、自分の幸福のため、自分の利益のためなのです。けれども、キリスト者にとって地上に対するしがらみはないはずで、キリストご自身に会うこと、その使命を果たすことのためにだけ、この地上で生きていることを知っているはずです。

もしそうでなければ、ヒゼキヤ王のようになってしまいます。彼は、主が間もなく彼が死ぬことになると宣言されました。泣いて願いました。すると、主は 15 年長く生かすことを約束され、病も癒されました。ところが、彼はその最後の 15 年に、自分のために生きてしまったのです。バビロンからの使者に、自分の宝庫にあるものすべてを見せてしまいました。そのために、バビロンは神殿を破壊して、その中にあるものを全て取り去ることが出来ました。自分の命は自分のためにあると思っていたからです。

けれども、自分が地上を去るのは、天にある希望のゆえに益であり、残されているのは主のためなのだということに立つことができるのです。「Ⅱコリ 5:15 キリストはすべての人のために死なれました。それは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためです。」自分のいのちは、死んでよみがえってくださった方のためにあるのです。